

提携米通信

2012年7月号・黒瀬農舎



年々パートさん集めが難しくなってきた手取り除草

6月は好天で稲も元気です。
草も元気で草取りに奮闘です。

5月も寒く悪天候の日が多く今年の田植えも6月5日までかかりました。

でもその後は、気温は低いですが、近年にない好天が続ки、遅れていた稲の生育もだいぶ取り戻してきたようです。

この時期作業の中心は「草取り」です。

昔の米作りは、1戸の農家が耕す水田は1畝（1町歩）程度が限界でした。

これは、田圃の耕起や田植え、稲刈り収穫が、人力や牛馬に頼っていたことでもあります、一番の原因になっていたのが「草取り」でした。

当時は、田植えが終われば一息入れる間もなく夏までずっと、どの農家も子供含めた家族総動員で朝から晩まで草取り作業に没頭でした。

「米作りは、草取り也」が現実だったです。

ところが、現在の日本の稲作農家は、9割以上が「兼業農家」です。

1畝や2畝のお米作りは、現在では勤めながらの「日曜百姓」で十分です。

除草剤が使われるようになったことで「兼業農家」が生まれたのです。

また、現在では有機栽培でも、トラクターを始めとした農業機械や、利水施設の開発向上と共に、雑草の発生を総合的に抑制するノウハウを駆使するので、除草剤がなかった時代の「それこそ死にもの狂い」と言って過言でない昔ほどの除草労力は要らなくなりました。

とは言っても、我が家の規模でも、除草剤を使わない米作りは、6月、7月、8月の3ヶ月の間で延べ400人程度の人力が必要です。

こうした中で、有機栽培に取り組んでいる仲間農家の最近の頭痛の種は、草取り作業に来てくれるパートさんが年々激減していることです。

数年前までは、一日に20人から30人のパートさんを頼むことができましたが、今年は多くても一日に10人余り集めるのが精一杯です。

雑草の発生を抑制する肥培管理の徹底や鴨の活用などで、現在の労力を半減以下にすることが我が農舎の喫緊の課題になってきたようです。

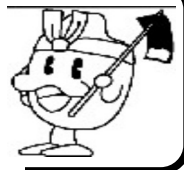
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

ライスロッジ大潟 代表 黒瀬 正

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



E-mail: akita@kurose.com Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

有機のお米作りの除草対策

昔から「草は見ずして草を取れ」という格言があるように、雑草が見えてからでは、雑草対策は手遅れで、多大な労力が要ります。

「見えない間に取る」即ち「草の発生を抑える対策や環境条件を整える」ことが大事です。

「草を見ずして、草を取る」というのは、単なる篤農・勤勉の道德観を説く格言ではなく、一番省力で合理的除草方法との教えでもあるのです。

有機の米作りでも①田圃を均平にして、水田の水深を一定に保つ ②耕起前までに田圃を乾燥させ、土の粒子を微細にする ③有機物を投入して、土の物理性を改善するなど手間を惜しまず雑草抑制（抑草）環境を創ります。

この環境条件創りは天候によって年により差が出たり、人によつての差があますが、この差は、最終的な人力除草の労力に数倍の開きを及ぼします。

これらの環境作りの上で、現在当地で行われている抑草・除草方法を紹介してみます。



① 手押し機械除草

機械による除草

田植えを終え、5日ほどで稲が活着すると、除草機による機械除草を1週間置きに4、5回繰り返します。

機械除草には、手押し式と乗用がありますが、乗用が使える田圃は、暗渠工事を十分行って、田圃の地盤が



② 乗用式機械除草

安定していないと無理です。

除草機により、雑草が芽を出さないように、また、発芽直後の芽を潰すことで抑草します。除草機以外にチェーンを引き回すこともあります。



③ マガモの放鳥による抑草

鴨による除草

田圃に鴨を放つことで抑草効果を期待する方法です。鴨が動き回ること、雑草の発芽を抑制したり、芽が出た直後土がかき回されることで芽が死滅、例え生き延びても、柔らかい種類の雑草は後で鴨が食べることで除草効果が出る。

鴨の種類は、マガモや、マガモとアヒルを交配

させたアイガモが使われる。

普及して20年近くになるが、予想以上の効果が出ていますが、鴨の管理に多大な手間が要るのが難点。

新型の除草機の開発

除草のための機械や道具は、この20年の間で種々開発されたが、なかなか的確なものが出現しないのが現状です。

我が農舎でも、今まで金を惜しまず各種の機械に投資しましたが、継続的に使っているのは、上の2種の機械除草機だけです。

④の写真は、秋田市で紙幣交換機や預け入れ払い出し機など特殊機械を開発製造してきたI氏が、昨年から我が圃場に通い開発している、機体をホバークラフト機構で浮かせ、後ろのブラシで土をかき混ぜる新型除草機です。

その上、GPSを使って自動で田圃を鴨のように泳ぎ回ることを狙っているロボットですが、果たして成功するかどうか心配しながら、大いに期待しているところです。

何れも、除草剤を散布したような魔法のような効果は無理ですが、水管理や土作りの環境条件を整え、幾つかの機械を組み合わせれば、人出は大幅に減らすことが出来るのでは…と期待しています。



④ ホバークラフト除草ロボット